

# 強風・大雨に伴う技術対策

釧路農業改良普及センター

- ▶ 早急に停滞水の排除に努めましょう
- ▶ 病害の発生に留意し、必要に応じて防除しましょう

## 1 ばれいしょ

- ・ 30時間以上の浸冠水で塊茎腐敗が著しく増加するので、早急に排水対策を行う
- ・ 疫病は、気温が低めに推移するとまん延するので、引き続き適切な防除を行う
- ・ 強風による茎葉の損傷や多雨に見まわれた地域では、軟腐病にも注意が必要

## 2 てんさい

- ・ 強風により茎葉が損傷し、高温・多湿になると褐斑病の発生が心配されるため、できるだけ早めに防除を行う
- ・ 葉腐病、根腐病、斑点細菌病などの発生にも留意し、必要に応じて防除を行う

## 3 大豆

- ・ 茎疫病は、滞水条件で多発するので、速やかにほ場表面の排水を行う
- ・ 湿害を受け、葉が黄化している場合は、窒素肥料の葉面散布により、生育の促進を図る。ただし、軟弱徒長・病害多発が懸念される場合は避ける
- ・ 茎葉の損傷部分から斑点細菌病や菌核病などの発生が心配されるので、ほ場を観察し薬剤散布する

## 4 野菜

- ・ 浸水・冠水したほ場はポンプ排水等により、速やかに排水を行う
- ・ 風雨により、茎葉がもまれたり、滞水の認められたほ場は、ほ場に入れるようになったら、速やかに防除を行う
- ・ 汚水で汚染した茎葉や果実を必要に応じて除去する
- ・ 滞水・冠水、風害等により、草勢低下が懸念される場合は、葉面散布・追肥等により草勢維持を図る

### だいこん

- ① 強風後高温となった場合は、軟腐病が発生しやすくなります
- ② 薬剤の選択 

〔	高温が続く場合は、スターナ水和剤(葉害防止)
	平年並みの気温の場合は、銅剤＋クレフノン